

氏名 山下 祥 一

学位の種類 医学博士

学位授与番号 甲 第 485 号

学位授与の日付 昭和55年3月31日

学位授与の要件 医学研究科病理系病理学専攻
(学位規則第5条第1項該当)

学位論文題目 CHIMERISM IN HEMO- AND LYMPHOPOIETIC CELLS OF
MALE RAT PARABIOSED WITH FEMALE; A STUDY BY
AORTIC ANASTOMOSES

雌ラットとパラビオーシスされた雄ラットの造血細胞，
並びに，リンパ球造生細胞のキメラ化；一大動脈吻合
による研究一

論文審査委員 教授 小川 勝士 教授 木村 郁郎 教授 小田 琢三

学位論文内容の要旨

末梢血中の有核細胞が造血に関与していることは、既に、種々の実験により示されたが、その程度については、未だ充分、明らかにされていない。そこで、雌雄ウイスター系ラットを大動脈吻合パラビオーシスにより接合、手術後5日、又は、10日後、骨髓、脾、リンパ節、胸腺の分裂中期細胞の染色体分析を行い、キメラ率を算定し、末梢血有核細胞の造血への関与の程度を解明しようと試みた。実験は貧血、多血、及び、正常状態のものについて行われた。その結果、貧血動物ではパラビオーシス5日後で、キメラ率は骨髓、18%、脾、31%、リンパ節、30%、胸腺、25%、10日後で、夫々35%、35%、43%、35%。多血動物で、骨髓、4%、脾、21%、リンパ節、21%、胸腺、14%であった。正常動物では、夫々、13%、26%、32%、24%であった。これより、赤芽球造生、リンパ球造生には、著明に、末梢血有核細胞が関与していることが証明された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、正常、および貧血乃至多血状態とした雄ラットを正常雌ラットと大動脈吻合パラビオーシス法で接合し、前者の骨髓、脾、リンパ節、胸腺の分裂細胞につき染色体分析を行ったものであるが、上記各状態におけるキメラ率を算定することによって造血に関与する細胞がパートナーの末梢血有核細胞に由来することを明らかにしたものであり価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。